

“International Mothers Chatting Party” の実践 —外国人家庭・国際結婚家庭の母語と子育ての支援として—

Practice of “International Mothers Chatting Party (IMCP)”: Parenting and Mother Tongue Support for Mothers in International Families

栗田 七重 KURITA, Nanae

● 国際基督教大学 高等臨床心理学研究所
Institute for Advanced Studies of Clinical Psychology, International Christian University

鈴木 庸子 SUZUKI, Yoko

● 国際基督教大学
International Christian University

Keyword

子育て支援, 母語, 外国人女性, 国際結婚家庭

1. はじめに

筆者らの近隣地域である三鷹市において、日本に在住の外国人女性および国際結婚をしている女性を対象に異文化、多文化環境での子育てを支援する目的で、“International Mothers Chatting Party”（外国人ママ・国際結婚ママのためのおしゃべり交流会、以下IMCP）が2012年より開催されている。ボランティア組織Mamatomo-caféが主催しているもので国際基督教大学高等臨床心理学研究所は2013年度5月よりこの活動を後援している。本稿はその実践を報告するものである。

2. IMCP実践の背景

IMCP実践は、二つの理念的背景を持っている。一つは、日本に来て間もない外国人女性は、子育ての知識や自治体による子育て支援情報から疎遠になりがちであり、積極的な支援が必要であるというものである。特に幼稚園就園前の幼児を抱える母親は行動範囲も限られるため孤立が顕著であり支援の意義が大きい。

一つは外国人家庭や国際結婚家庭は必然的に多言語環境におかれるが、日本社会では、未だ母語（注1）による子育てが重視されるべきという認識が不十分なことである。逆に母親は子どもの日本語習得を優先させるために日本語で接するほうがよい、といった意見が聞かれ、外国人の母親もそれを信じてしまうケースもある（注2）。この点で先駆的な取り組みを展開してきたカナダのオ

ンタリオ州は、1977年に教育改革の報告書「To Herald A Child」を作成しており、そこに「子どもは他の言語に先立ち母語に流暢になる機会が与えられるべきだ」と明記されている（武田，2002）。また1980年代以降、トロント大学のカミンズ博士を中心に母語保持の理論と教育実践が研究され（カミンズ，中島，2011），オンタリオ州教育省やトロント教育委員会は外国人住民の母語保持を意識した子育て支援，就学前教育，公教育を行っている（Raymundo，2013）。

IMCPは、トロントの実践にならい、日本においても外国人家庭や国際結婚家庭の子どもたちが、健全な言語発達を保障されるよう、その一助を目指して活動を開始したものである。

3. 目的

IMCPは、①日本で外国人や国際結婚の母親が子育てをする際に出会う問題やニーズ、展開点を明らかにし②それらに対してどのような支援がより対象の現状にあった効果の高いものであるかを試行しながら③グループでの語り合いによって参加者が普遍性や希望の感覚を持ち④適切な情報提供を行なうことで地域の具体的な他資源とつながれるようにすることを目的としている。IMCPは、一方向的な知識の伝達で社会的、情緒的な問題の解決を図るのではなく、集団の力を使いながら、参加者が集い、多様な子育て文化や背景とそこで問題や展開点を共有し合い、学び合うことで一人一人の文化やそこに連なる個人のアイデンティティが尊重される場を目指している。その活動をグループワークの一端とするならば、相互作用介在者的アプローチの形をとっている（Reid，1981）。また、特徴として、子育ての言語や親の文化をどう継承するかについて、参加者自身と子供のアイデンティティと連なる重要なテーマとして設定している。

なおMamatomo-caféは、外国人女性の子育て支援のためにつくられた市民ボランティア団体 International Mothers Group（IMG）とピナット日本語教室のスタッフおよびボランティアメンバー

が集まり、赤ちゃんのいる外国人女性が地域に居場所を持ち、子育てをしやすい環境になるよう支援しようと、2012年から活動しており、多様な相談やニーズに対応できるよう、臨床心理士や助産師、看護師、市議会議員や教育関係者がスタッフとして参加している。2013年4月より現在（2015年9月）は毎月1回、IMCPを三鷹市内の会場で開催している（図1参照）。

4. 実践報告

IMCPの活動を開始した2012年度には試行的に2回，“International Mothers Tea Party”（外国人ママと国際結婚ママのためのティーパーティ）として11月と2月に実施し、参加者である子育て中の外国人女性や国際結婚をしている女性から、日常で困っていることやサポートが欲しいポイントをディスカッションやフィードバックを通じて抽出した。

そこで抽出されたことを基盤にして2013年度からは現在のIMCPの形で、毎月一回、月別のテーマ（表1，表2参照）を決めた交流会を開催している他、年に数回浴衣をその場で貸し出して着る夏祭りや、持ち寄ったゲームや一品をシェアする年末パーティーなど特別企画を行なっている。また、必要に応じてスタッフ会議を開き、交流会の内容や広報の方法について共有、検討をしている。

IMCPは90分間の時間構造で、スタッフと参加者の簡単な自己紹介を行った後、短い遊び紹介の時間を取り、日本および参加者の出身国の手遊びや童謡、読み聞かせなどをし、その後30分から50分程度の時間で月別のテーマやプレゼンテーションを軸に、参加者とスタッフによる大グループでのディスカッションを行い、最後にフリーでおしゃべりする時間をもうけている。日本語が得意ではない参加者にもわかりやすいよう、優しい日本語や、多言語の通訳スタッフを介して行なわれている。また、保育スタッフが子供たちと同じ会場内の保育スペースなどで保育している。実際には毎月15名内外の参加者と子どもが参加しており、外国人参加者の国籍（シリア、ベトナム、

台湾、韓国、中国、フィリピン他)もその母語も多岐にわたっている。また、参加者が同伴する子どもの年齢は0歳から3歳が最も多い。

月別テーマは、「母語で子育てをしてもいいのかどうか」「どうやったら母語で上手く子育てが出来るのか」「夫の家族との文化的な違いをどう乗り越えてつき合うのか」といった、子育ての言語や家庭での文化のギャップに関する領域へのニーズも関心も特に強い。また、自分の母国の文化や言語の紹介や誇りを持つことも毎回現われるテーマである。ディスカッションのリーダーは2013年度には臨床心理士である筆者が務め、以後はテーマに沿ったプレゼンテーションをスタッフもしくは参加者が提供してからディスカッションをする形となり、リーダーはスタッフで分担している。

広報活動としては、三鷹市内の外国人ママや国際結婚ママおよび子育て支援者にIMCPの活動を知ってもらおうよう、他言語のちらし、ホームページおよびフェイスブックアカウントを作成し、定期的に市内の子育て関連施設などに掲示を依頼している。また、日本での外国人女性の子育てと家庭での母語や母親文化継承の重要性への理解を広く求めるため、IMCPの紹介の他に母語教育の大切さや外国人ママのニーズやもたれやすい誤解などを紹介した小冊子『International Mothers Chatting Party 外国人ママと国際結婚ママのおしゃべり交流会 in みたか』を作成し、近隣の子育て支援施設などに設置している。

5. 成果

IMCPの実施により、筆者近隣での外国人女性および国際結婚女性が感じている日本での子育て上の問題点が明らかになって来た。その一つは子どもの日本と日本語への適応(国際結婚女性の場合は夫の言語への適応)を優先するあまり、母親が母語による子育てを躊躇し、また希望していても母語で子育てするサポートや仲間を得ることが困難なことである。子育て関連機関や夫と義理の両親などから直接的に日本語を優先して子育てす

るよう請われプレッシャーを感じていた参加者も多い。IMCPでのディスカッションやプレゼンテーションを通じて、母語で子育てをしてもいいのだという認識を初めて持った、母親自身の母語で子育てすることの喜びや大切さを実感した、母語や文化を子どもに伝えることに自信がついたことなどが参加者からフィードバックされた。

また、参加者からは仲間と語り合うことで気持ちが軽くなること、子育て仲間ができて孤立感が少なくなること、日本の文化環境や、病院や保育園といった、子育てをする上で重要な施設に関する情報が分かりやすく得られたなどのフィードバックが得られた。

大グループでのディスカッションを中心にIMCP全体を通じて、単に子育て中の外国人女性同士での情報交換や居場所作りにとどまらず、安全な場で自分を表現し人の話を聞くことで、参加者が自身のアイデンティティへの誇りを感じ、また子育てや異国生活での体験の普遍性を感じることで、自分と将来に希望を持つ体験となっていることが考察される。

6. 課題

IMCPに参加することで、子育てや夫婦関係、親戚づきあいや言語についてなど、安心感や自分自身への気づきがあった参加者は多い。今後は更に広報を充実させることで、潜在的なニーズのある外国人および国際結婚女性にコンタクトしていくとともに、現状の調査とIMCPへの参加の効果を個別的に検討することで、日本で子どものいる外国人女性へのより現状にあった子育て支援の枠組みを探索してゆくことが課題となるだろう。

注

1. 母語とはTove Skutnabb-Kangas(1984)によると、1)最初に学んだ言語、2)最もよく知っている言語、3)最もよく使う言語、4)帰属意識が感じられ、また他人からも母語話者として認められる言語と定義される。その後の論文では母語は1つとは限らないこと、人生の中で変化しうることなどが議論されている。(Skutnabb-Kangas 公式ウェブ

表1 2013年度月別大グループディスカッションテーマおよび参加者人数

月	ディスカッションテーマ	外国人ママ (子ども)	国際結婚ママ (子ども)	日本人ママ (子ども)
4月	What language for parenting? / 子育て, 何語です?	7 (6)	0	4 (2)
5月	How do you interact with your parents & in-laws? / 親・義理親と, どうつきあう?	4 (2)	2 (1)	3 (2)
6月	Is the way of parenting different? / 子どもの育て方, ちがう?	10 (7)	0	3 (2)
7月	Where do you put your child in? / 子ども, どこに預ける?	3 (2)	1 (1)	0
8月	Summer party / 夏祭り (浴衣着付け/盆踊りなど)	8 (11)	2 (2)	3 (2)
9月	How shall I teach language to my child? / ことば, どう教える?	9 (6)	0	1 (1)
10月	How do you socialize with Japanese 日本人と, どうつきあう?	7 (5)	0	1 (1)
11月	How shall I care for my child's dental need? / こどもの歯のケア	6 (5)	0	1 (1)
12月	How do you welcome the new year in your culture? / 新年 (お正月), どうすごす?	7 (5)	0	0
1月	Dealing with stress! / ストレス, どうしてる?	5 (4)	0	0
2月	What language to teach? / 何語, おしえる?	5 (3)	1 (1)	1 (1)
3月	Let's make chatting party more fun! / 一年間をふりかえる	1 (1)	3 (4)	3 (3)
合計		72 (57)	9 (9)	24 (19)

表2 2014年度月別大グループディスカッションテーマおよび参加者人数

月	ディスカッションテーマ	外国人ママ (子ども)	国際結婚ママ (子ども)	日本人ママ (子ども)
4月	How to make friends with kids / ママともだち, どうつくる?	8 (3)	1 (2)	2 (3)
5月	Raising Your Child Without Raising Your Voice / 叱らない子育て	3 (2)	1 (1)	2 (4)
6月	Let's Try Yukata (Japanese Summer Kimono) On! / ゆかたを着てみましょう!	4 (3)	2 (2)	2 (2)
7月	Summer Festival! / 夏祭り!	9 (7)	3 (3)	2 (1)
8月	Summer drinks for children / 夏のこどもの飲み物	2 (2)	0	0
9月	"Baby Sign Language" / ベビーサインについて	7 (5)	2 (3)	0
10月	Mind development of the age 0,1,and 2 / 0・1・2歳のころ	2 (1)	1 (1)	0
11月	Baby massage with Japanese songs / わらべ歌ベビーマッサージ	5 (3)	1 (1)	0
12月	How to spend the New Year's holiday in Japan / 年末年始の過ごし方?	5 (3)	0	2 (2)
1月	Language to use for parenting / 子育てのことば	4 (1)	1 (1)	0
2月	The girl's festival and children's festival in Japan / 三月のひな祭りと五月のこどもの日	2 (1)	0	1 (0)
3月	Let's reflect the past year! / 交流会について話そう	3 (2)	2 (2)	0
合計		54 (37)	14 (16)	11 (12)



図1 IMCPの様子（写真）

サイト <http://www.tove-skutnabb-kangas.org/en/index-en.html>, 2015/9/26参照)

2. 関係者からの直接の聞き取りによると、日本語を母語としない母親が保育園や幼稚園のスタッフから「お母さんも日本語で」と言われることがある。

引用文献

- Reid, E. K. (1981). *The History of the Use of Groups in Social Works*. Connecticut, Greenwood Press. ケニス・E・リード (1992) 「グループワークの歴史 人格形成から社会的処遇へ」 勁草書房
- Skutnabb-Kangas, Tove (1984/2007). *Bilingualism or not - the education of minorities*. Clevedon, Avon: Multilingual Matters, 378 p.
- Raymundo, V. M. (2013) *Raising your Child while Holding onto your Home Language: Supporting Immigrant Families in Toronto, Ontario, Canada*, *ICU Educational Studies* vol.55 p.173-177
- 武田 信子 (2002) 『社会で子どもを育てる—子育て支援都市トロントの発想』 平凡社新書
- ジム・カミンズ著・中島和子訳著 (2011) 『言語マイノリティを支える教育』 慶応義塾大学出版会

